

防木ジャーナル

THE BOSUI JOURNAL

ROOFING/SIDING/INSULATION/RENEWAL

6

2016

No.535

特集

- ◆ 建築物省エネ法に効果的な防水技術
- ◆ 公共建築工事・改修工事標準仕様書改定の概要
- ◆ 建築用シーリング材の開発動向と今後



アーツ、壊したのは誰だ!?

鈴木 哲夫

子供の頃、壊してしまった鉢をそのまま合わせて黙っていたことがある。弟が触れて崩れたところを見て、「アーツ、壊した」と・・・こんな話は、「サザエさん」にも出てくるが、改修工事の中でも似たようなことが起こる。マンションの改修で、袋詰めした軽い廃棄袋を移動するとき、壁に設置されていた防水型コンセント(写真1)に袋が擦れるように当たって台座を破損させてしまった。この状態では、誰もが破損させた作業員を不利な立場に追い込んでしまう。現場代理人から当然のように、壊してしまい弁償するよう手配したとの連絡が入ったのだが、破損の状態を細かく聞いてみたところ、袋は丸くそれほど重くない上に、歩きながら移動したときに触れただけで、強く当たったわけではないと作業員は言う。丸い袋が直撃しても破損するほどの力は働いていないので、どうもすっきりしない。

破損部を確認すると、コンセント本体を止める裏側のナットが台座から抜け出した状態で破損していたので、相当の力が働いたことになる(写真2)。仮に袋が相当な力で当たれば本体に何らかのキズが残されるはずで、写真1のように表面には何も傷がないのはおかしいのである。

「アー・・・これは、もともと壊れていたのではないのか」と、子供の頃のことを思い出した。

本体は、台座と一体になったナット部へ小ねじで締め付けられ、破損した破断面は、経年しないと付かない変色(写真2上)が認められた。破断面をこすると地肌が現れた(写真3)。写真2下の破断面では、ナット下部の破断面はきれいであったが、表面ナット左側の汚れが破断面ににじんでいたことから、破損していたもののほんの一部が繋がった状態であったと推定できる。

ナットが抜け出る壊れ方は、電動ドライバーのトルクが強く、写真1の本体矢印部の小ねじを締めすぎて台座が破損し、辛うじてつながっていたところに軽い衝撃で運悪くポロリととれたのだ。壊れるほどの当たり方をしていないのだから、作業員はとんだ濡れ衣である。

改修工事には、えん罪になりうる破損予備群が潜んでいるので、おかしな壊れ方をしたときは、注意深く破損状態を観察し、自分のせいで壊したものか注意深く確認したいところである。

(有)鈴木哲夫設計事務所

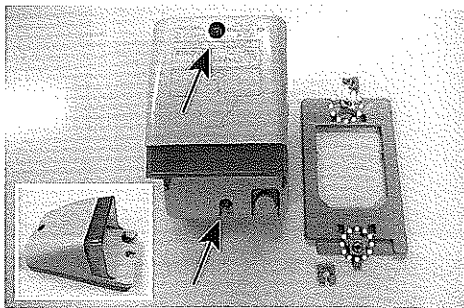


写真1 防水型コンセント本体(中央)を取り付けた破損部の台座(右円内)

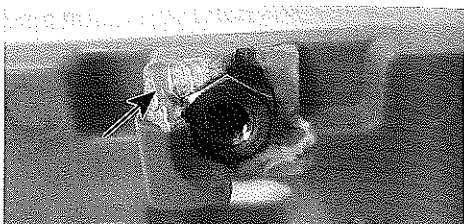


写真2 白色を帯びた破断面(上)と破断面の一部に汚れがある破損部(下矢印)

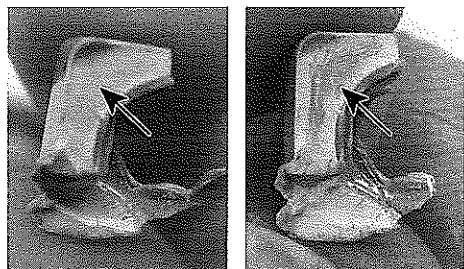


写真3 破断面(左)を軽くこすると色落ちした表面(右)